

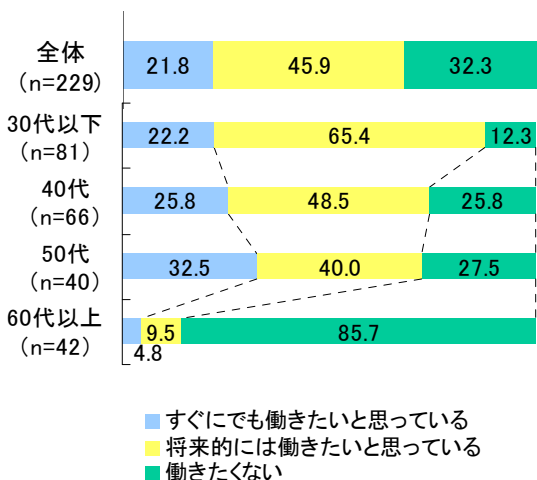
01 Woman's Voice

主婦のマネーライフ・仕事意識調査から～

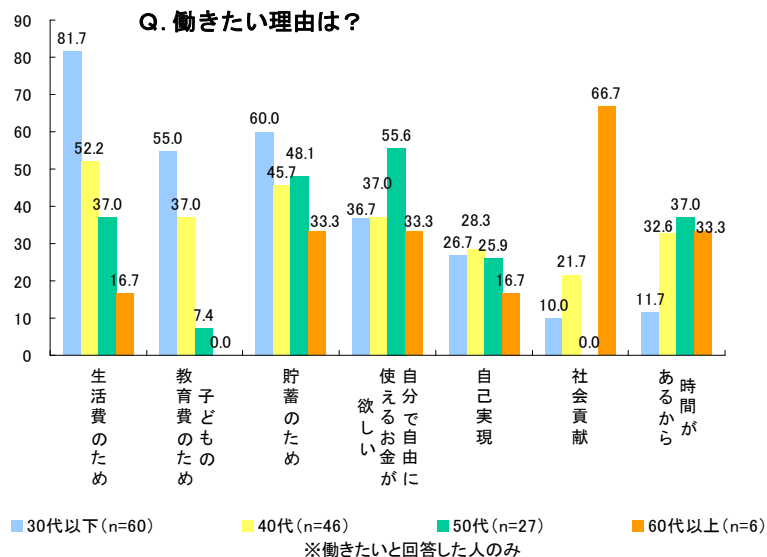
8割がたの専業主婦は外で働きたい！けど、家を空けられない・・・

(数字はすべて%)

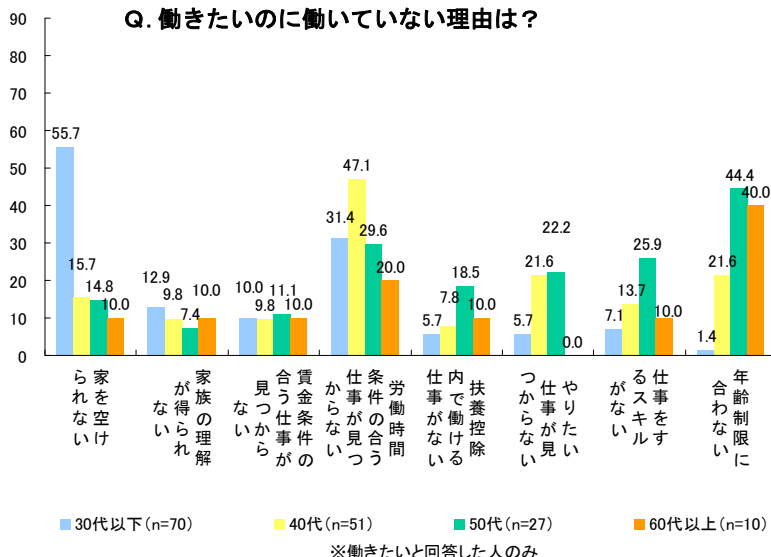
Q. 専業主婦に、今後外で働きたいか？



Q. 働きたい理由は？



Q. 働きたいのに働いていない理由は？



経済活性化のために女性の活躍を推進しようと政府に関係閣僚会議が発足するほど、労働力として女性の働きが期待されている。専業主婦の再就職支援も高まるだろうが、ミセスの気持ちはどうなのか、専業主婦229人の回答は・・・。

すぐにでも外で働きたいと思っている人は2割、将来的に働きたいという人が4割強で、働きたい人が7割近くに上る一方で、働きたくないという人も3割強に。もっとも60代以上の数字を除くと、働きたくない人は2割になり、50代以下

の専業主婦の8割がたは外で働きたいと思っていることになる。

働きたい理由は年代によって異なるが40代以下は圧倒的に生活費のため、次いで貯蓄のため、子どもの教育費のためと切羽詰まった理由が並ぶ。50代になると自分で自由に使えるお金がほしいのと、おそらくは老後の蓄えのため。60代以上はn数が少ないので参考にとどめたいが、社会貢献意欲が仕事につながるようだ。

では、なぜ働かないのか。40代以下は家を空けられない、労働時間条件が合わないが二大理由。要するに自分が収入を

得るより、子どもの面倒を自分で見るほうが家計に役立つということだろう。悲しいかな、家を空けられるようになり労働時間条件を気にしない50代になると、雇用側の年齢条件に合わなくなるし、仕事のスキルもないというジレンマに。40代、50代で、やりたい仕事が見つからないという人が2割いるが、これも年齢条件と内容と労働時間と賃金がうまく噛み合わないかと推察できる。

主婦が家事・育児と仕事を天秤にかけてどちらが結果的に家計のためになるかを考えているうちは、再就職は難しい。

所長の目

今年5月から「女性の活躍による経済活性化を推進する関係閣僚会議」が発足、その意見交換会に行ったとき女性有識者が声を揃えたのが、(いまだに)社会(男性)の意識改革が先決だということ。子育てしながら企業で働き続けるにしても、女性が起業したり、専業主婦が再就職するにも、家事・育児の8割方を女性が担うようでは、女性だけが疲れ果ててしまう。

が、この閣僚会議も目的が経済活性化であるように、少子化で男性だけでは働き手不足に陥るのは必然。男女の性別ではなく能力や性格の向き不向きといったことで、仕事に重点を置くか家事に重点を置くか、両立するかを自ら選べる社会環境に早くなってほしい。(植田奈保子)

※2012年07月12日～16日実施。全国の既婚女性229人回答。詳細はくらしHOWへ問い合わせを

Real Voice

再就職支援に
望むこと

◆子どもを預かってくれるところが多様化すると助かる。保育料も安くしてほしい。保育料と賃金が同じでは働く意味がない(35歳/福岡) ◆専業主婦でも就活を理由とするときから子どもを預けられるようにしてほしい。働きたくても子どもがいる限り、就活もままならない(32歳/兵庫) ◆定時帰宅の推進、家族休暇(子どもの行事など)を社会的に認める(24歳/千葉) ◆在宅ワークがしやすくなる仕組み作りを支援してほしい(43歳/大阪) ◆資格取得の援助や主婦限定の就職セミナーなど(32歳/東京) ◆主婦だけでなく夫も家庭に参加できるよう、会社・社会の理解を深めてほしい。主婦が働けるようになって夫の仕事の環境が変わらなければ、しんどいのは主婦だけ(38歳/神奈川)

02 HOW's View

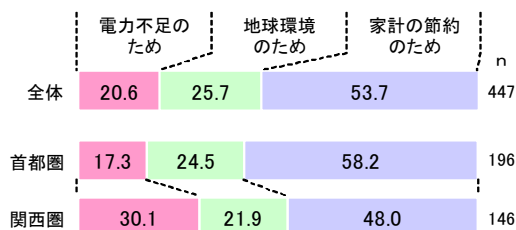
家計の節約＞地球環境＞電力不足 省エネ・エコに積極的な主婦のホンネ

東日本大震災から2年目の夏となる今年8月に、全国の主婦を対象とした省エネ・エコアンケートを実施した。

日常生活で節電を意識している人は96.6%、節水は94.2%、リサイクルは93.5%と全般的に主婦の意識は高い。そして1年以内の省エネ商品の購入・買い換えは50.1%と半数近い主婦が消費行動を起こしている。購入者に聞いた購買内容はLED電球41.5%、エアコン31.6%、冷凍冷蔵庫21.7%と家庭での利用頻度の高い電化製品が主体。

また、節電行動では待機電力の軽減85%、エアコンなど消費電力の高いものを使用しない81.8%、使用時間の短縮87.5%と、主婦のほとんどが細かな節電努力を行っている結果に。「タイマーを利用し23時～7時の間にできるだけ電力を使う」(32歳)など様々な工夫を凝らし、昨年よりも40%も使用電力量が下がったという家庭も。

【あなたの省エネの目的は？】



2012.8.2～8.8ミセスを中心とする全国の女性対象にWEB調査(n=452)。詳細レポートはくらしHOWサイトへ

一方、省エネの目的を聞いたところ1番は家計の節約で53.7%。次いで地球環境が25.7%、電力不足20.6%となり、省エネ・エコに積極的な主婦もそのホンネは家計の節約が多数である。これを首都圏と関西圏で比較すると、関西圏では電力不足の割合が1.7倍近く高い。昨年首都圏を中心に高まった節電意識の波が首都圏では落ち着き、全国的な広がりを見せているようだ。(くらしHOW研究室/大田司)

03 Group Eyes

全国の主婦と共に福島復興を応援！ リビング新聞の震災への取り組み

「福島県は今までと変わりません。復興後はぜひ観光に来てください」。これは東日本大震災直後にリビング新聞ネットワークでスタートした「支えたいプロジェクト」に寄せられたリビング福島の村上編集長の言葉である。

震災から1年以上たった今なお、観光や農作物への風評被害が続く福島のために何ができるか。リビング新聞では主婦目線での福島復興の取り組みを続けている。その1つがオリジナル企画として実施した1泊2日の応援バスツアー。福島の自然や味覚、手工芸、リゾートを楽しく満喫できるプランで首都圏から福島へ観光誘致をはかった。

また、農作物への風評被害対策では東京・湘南・静岡・仙台・栃木のリビング新聞編集長が福島を訪れ、桃の生産農家や放射性物質検査の現場を視察。市場に出る福島産農作物に対する読者の不安解消のため、自らの目で安全性を



東京・湘南・仙台・静岡・栃木のリビング新聞編集長が福島県を訪問し桃の生産農家を応援

確認し紙面で広くPRを展開した。

こうして福島県民が本当に望むことを具現化してきた結果、「まず主婦がつまらない風評に惑わされないようにしなければ」(50歳・横浜市)との声も。リビング新聞では福島県産の新しいお米「天のつぶ」のPRも11月に実施予定。これからも全国の主婦と共に福島復興を応援していく。

(サンケイリビング新聞社 CC室)